

## 兵庫県内ドクターヘリ緊急連絡会議

日 時：令和8年6月1日（月） 13:30～14:10

場 所：兵庫県庁2号館5階会議室

出席者：出席者名簿のとおり

### 1 挨拶

#### ○齋藤兵庫県知事

先日5月28日、関西広域連合委員会において、兵庫県に基地病院を有するドクターヘリ2機について、5月および6月に一部運休が発生しており、さらに7月以降には長期の運航停止の可能性があるとの報告を受けた。

関西広域連合においても、すでに厚生労働大臣等に対し緊急要請を行っており、ドクターヘリの整備士不足は全国共通の課題であると認識している。安定的かつ効率的な運航体制の再構築に向け、今後も国に対して強く働きかけていくことが重要である。一方で、県としても本事案を極めて重大な問題として受け止めている。

先般、運航事業者に対し、運航継続に向けた申し入れを行った。特に但馬地域をはじめ、広大な中山間地域を抱える兵庫県においては、ドクターヘリは重篤患者や交通事故時の迅速な搬送に必要な不可欠な医療インフラである。年間1,000件を超える出動実績を踏まえると、今回の運航停止が地域医療に与える影響は極めて大きいと強く懸念している。

本日は、運航状況の情報共有を行うとともに、運休期間中の消防ヘリやドクターカー活用等の補完体制を強化するため、忌憚のないご意見をいただきたい。

また、中長期的には、運航事業者を含めた人員確保や安定運航体制の構築について、行政も一体となって検討する必要がある。6月中には実務者レベルでの検討の場を設置したいと考えている。

#### ○平井鳥取県知事

齋藤知事をはじめ、関係者の皆様が極めて困難な状況に直面していることを、パートナーとして重く受け止めている。兵庫県と共にこの難局を乗り越えるため、鳥取県として最大限の支援を行いたいと思う。

豊岡や加古川地域の皆様も大変厳しい局面にあると認識している。齋藤知事とはすでに電話でも協議しており、鳥取県として果たすべき役割を果たしていきたい。

具体的には、鳥取市内にある医師搭乗型の防災ヘリや米子市内にあるドクターヘリによる協力についても検討可能である。加えて、但馬西部地域については、

従来から鳥取県内の医療機関を利用している住民も多く、これら既存のネットワークを最大限活用して協力したい。

さらに、鳥取県では本年 4 月から独自契約による運航体制へ移行し、通年運航を実現している。その過程で得た経験や人脈を活用し、必要であれば人材紹介を含め、今回の運休期間の短縮、さらには将来的な通年運航体制の構築に協力したいと考えている。

## 2 県内ドクターヘリの運航状況等について

(山下保健医療部長より資料に基づいて説明)

## 3 意見交換

### ○門間豊岡市長

7 月から 9 月にかけての全日運航停止は、あつてはならない事態だと認識している。ドクターカーによる補完も検討されているが、まずは全面停止を可能な限り避けるべく、最大限協力いただきたい。

また、特定地域にのみ運休が集中することのないよう、公平性と合理性を確保した運航調整をお願いしたい。但馬地域は広域かつ中山間地域であることから、ドクターヘリの必要性は極めて高い。

本件は単なる関西広域連合の事業としてではなく、県としての地域医療確保の責任にかかわる問題として、主体的な関与をお願いしたい。また、運航縮小期間中においても、地域の救急医療体制が維持できるよう、県が主導して関係機関による連絡調整体制を構築していただきたい。また、ドクターカー運用に伴う人件費や出動件数増に伴う経費への財政支援についても検討いただきたい。

事態が長期化すれば、医師の負担増や士気低下を招き、医師離れや一般外来診療への影響など、病院の経営基盤に深刻な影響が及ぶのではないかと懸念している。地域医療と病院経営の安定化に向け、引き続き県の関与を求める。

### ○藤岡朝来市長

中山間地域を抱える朝来市にとって、ドクターヘリは極めて重要な存在である。実際に養父市朝来市を所管する南但消防本部からの出動要請は近隣の消防機関を上回っており、ドクターヘリの依存度が高い地域である。

7 月からの運航停止は、熱中症リスクが高まる時期と重なり、市民の不安は極めて大きい。但馬地域の救急体制の維持確保について、市民が安心できる救急医療体制の再構築及び運航停止による影響を最小限とする検討を進めていただきたい。

○県立はりま姫路総合医療センター 木下病院長

当院では、週 3～4 件程度のドクターヘリ搬送患者を受け入れているが、その多くは多発外傷など重症患者であり、迅速な搬送が不可欠である。運航停止により、現場への医師派遣や患者搬送に遅れが生じることで、予後の悪化が強く懸念される。

短期的な対策としては、運休は特定の病院に集中するのではなく、分散調整をお願いしたい。また、ドクターカー運用増加に伴う人員確保等に対する財政支援を検討していただきたい。

長期的な対策としては、運航会社との情報共有や連携強化をお願いしたい。本件も突発的に発生したように感じており、情報共有が十分でなかった点も課題であると考えている。あわせて、ドクターヘリの運航コストについても情報共有をいただきたい。

○公立豊岡病院 三輪病院長

率直に申し上げますと、兵庫県のドクターヘリのみが運休の影響を受ける点について納得できない。また、出動件数が特に多い豊岡病院のドクターヘリが停止対象となることも理解しがたい。さらに、本件の運航停止が既定事実であるかのように新聞発表がなされたことに対して、病院全体として強い不満を持っている。

ドクターヘリの運航は関西広域連合のもと兵庫県医務課が調整窓口であると認識している。地域・季節特性やこれまでの運用実績を踏まえ、医療体制への影響を最小限に抑えるよう、主体的かつ積極的な調整を求める。

また、整備士が搭乗しない形での運航要件緩和についても検討いただきたい。整備士の主な役割は現地到着後における機体の不具合対応であり、整備士が不在であっても往路の運航自体には支障がないと認識している。仮に現地で不具合が発生した場合には、ドクターカーによる追加搬送や、別途整備士を派遣することにより対応可能と考える。運航会社からは本来整備士が搭乗する左側の座席に、研修カリキュラム終了した操縦士を搭乗させることで、一定期間の運航日数を確保できるとの提案を受けている。

最後に、当院では DMAT カーを第 2 のドクターカーとして活用しているところであるが、仮に運航停止が常態化する場合には、それに伴う補完的措置に係る財政支援についても検討いただきたい。

○兵庫県病院局 杉村病院事業管理者

加古川医療センター及びはりま姫路総合医療センターを基地病院とする兵庫県ドクターヘリは、運航休止のなかった令和 6 年度において 577 件の出動実績

がある。そのうち約4分の3は、西・北播磨および丹波地域といった、特にドクターヘリの必要性が高い地域で占められている。

これらの地域においては、ドクターヘリであれば概ね20分程度で病院へ搬送可能である一方、ドクターカーでは搬送に相当の時間を要し、運航停止による影響は非常に大きいと認識している。

については、兵庫県内におけるドクターヘリ運航への影響を最小限にとどめるよう、積極的な調整をお願いしたい。今回の運航停止にあたっては、ドクターカー等により可能な限り対応していく考えであるが、先に両病院長からも指摘があったとおり、厳しい経営環境の中で、その負担は非常に大きいものとなっている。こうした状況を医療現場の努力のみで乗り越えることには限界があるため、県として最大限の支援をお願いしたい。

○門間豊岡市長

7月から9月までの全面停止について、本当に回避できないのか。

○山下保健医療部長

我々としても全日の3か月停止は、何としても避けるべきであると認識している。また、リスクは分散し、従来の枠組みにとらわれず、ゼロベースで検討し、何としても全面運休を回避できるよう、最大限努めたいと考えている。

#### 4 総括

○齋藤兵庫県知事

本日は多くの貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。県として、皆様とともにドクターヘリの安定運航に向け、全力で取り組みたい。

特に但馬地域においては、ドクターヘリは不可欠な医療インフラであり、7月からの運休については、2パイロット制を含め、あらゆる可能性を検討していきたい。

財政負担については、国とも連携しながら対応したい。情報共有が不十分であった点については申し訳ないと思っている。今後は現場関係者による運航対策検討会を6月中には開催し、情報共有と対策検討を行っていく。

#### 5 閉会